

# 東京都立八王子桑志高等学校 令和6年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	国語	科目：	論理国語	単位数：	3	指導学年：	2
使用教科書	精選論理国語（東京書籍）	副教材	常用漢字フォルダ（浜島書店）/文学国語セレクション（東京書籍）				
			三訂版 よむナビ現代文2,5 修練編（いいずな書店）				

年間指導目標：

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	評価方法					配当 時数
					a	b	c	d	e	
1 学期	中間 考査	単元名【発見への誘い】 読む『いつもそばには本があった』 読書の意義について筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える 読む『ミロのヴィーナス』 描かれている内容を理解し、論理的に考えることの意義を知る	(知)	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 文や文章の効果的な組み方や接続の仕方を理解している。	○	○	○	○		23
			(思)	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。	○	○		○		
			(態)	粘り強く哲学的視点に立った語句の意味や筆者の思考の道筋をつかみ、今までの学習を生かして自己の知識と関連付けて自分の意見をまとめ、発表しようとしている。		○	○	○	○	

1 学期	期 末 考 査	単元名【言語と認識】 読む『相手依存の自己規定』 具体的な事例と筆者の意見の 関係に注意して読み、言語と 自我の構造について考える。 探求『資料を整理し、テーマ を吟味する。』 資料を集めて様々な観点から 整理しテーマを吟味する。	(知) 文や文章の効果的な組み立て方 や接続の仕方について理解を 深めている。言葉には、言葉 そのものを認識したり説明し たりすることを可能にする働 きがあることを理解している。	○	○	○	○		24
		(思) 読むことにおいて、文章の 構成や論理の展開、表現の 仕方について、書き手の意図 との関係において多面的・多 角的な視点から評価している。	○	○		○			
		(態) 積極的に筆者の意見と具体 例の関連性を理解し、学習の 見通しをもって調べた身近な 例を整理分析して自己把握に ついての考えをまとめ他者に 伝えようとしている。			○	○	○	○	
2 学期	中 間 考 査	単元名【人間を見つめる】 読む『分人とは何か』 提示された間に注意して筆者 の主張を理解し、自分に引き 寄せて考える。 読む『メディアの変容』 挙げられている事例と筆者の 分析の関係に注意して読み、 人間関係の在り方について 考えを深める。	(知) 論証したり、学術的な学習 の基礎を学んだりするために 必要な語句の量を増し、文 章の中で使うことを通して、 語感を磨き語彙を豊かにし ている。	○	○	○	○		23
		(思) 「読むこと」において、関 連する文章や資料を基に、書 き手の立場や目的を考えなが ら、内容の解釈を深めている。	○	○		○			
		(態) 進んで本文中の複数の問 いと具体例の配置に着目し ながら、筆者独自の造語に基 づく主張を読み取り、今まで の学習を生かして自分とその 人間関係について考えを深め ようとしている。			○	○	○		
2 学期	期 末 考 査	単元名【学問のまなざし】 読む『「リスク」と「リスク 社会」』 対比に注意して論の展開をつ かみ、「リスク」という概念に ついて理解を深める。 探求『仮説を立てて検証す る』 仮説を立てて検証し、検証課 程を文章にまとめる。	(知) 文章の種類に基づく効果 的な段落の構造や論の形式 など、文章の構成や展開の 仕方について、理解を深めて いる。	○	○	○	○		24
		(思) 読むことにおいて、文章の 構成や論理の展開、表現の 仕方について、書き手の意図 との関係において多面的・多 角的な視点から評価している。 書くことにおいて多面的な 視点から自分の考えを見直し たり、根拠や論拠の吟味を重 ねたりして、主張を明確にし ている。	○	○		○			
		(態) 積極的に記述から中心主 張を捉えて要約し、学習課題 に沿って現代における課題を 具体的に考え話し合おうと している。			○	○	○	○	
3 学期	学 年 末 考 査	単元名【社会を捉えなおす】 読む『「である」ことと「す る」こと』 例示と意見の関係を整理して 主張をとらえ変化する社会に おける人間の在り方について 考える。 読む『消費されるスポーツ』 筆者の提示す津問題を読み取 ってメディアとスポーツの関 係について理解を深める。	(知) 言葉には、言葉そのものを 認識したり説明したりする ことを可能にする働きがある ことを理解している。 文や文章の効果的な組み方 や接続の仕方を理解し	○	○	○	○		23
		(思) 読むことにおいて、文章の 構成や論理の展開、表現の 仕方について、書き手の意図 との関係において多面的・多 角的な視点から評価している。	○	○		○			
		(態) 積極的に社会事象の分析 を通した筆者の主張を読み 取り、学習課題に沿って自分 の考えをまとめようとして いる。			○	○	○	○	